

2 9860

一三四 对空战斗详要报

昭和二十一年十一月三日  
第三十三军电波警戒队

軍事秘

昭和二十年一月三日

一九三五年

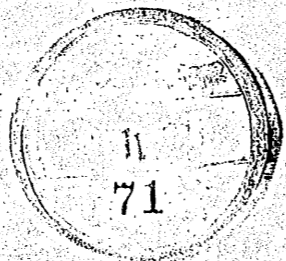
# 對空戰鬥詳報

第三十三軍電波警戒隊本部

9860

2392

WDC  
156290



昭和二十年一月三日 自兄至對空戰鬥詳報

第三軍 西支隊 我隊本部

一 戰鬥前於此彼我形勢之概要

昭和十九年十一月三十日九時及昭和二十年一月一日九時、二回ニ亘リ  
 ボーイング四機高度ヲ以テ沖繩本島上空ニ飛來、偵察ヲ實施  
 セルモノ、如ク何ラ放彈スルコトヲ東南方ニ脱去ス  
 斯ノ如ク最近敵、偵察屢ニニ鑑ミ部隊ハ敵ガ近ク來攻セヨル  
 企圖ヲ有スルコト判斷シ各隊ヲ以テ銳意至嚴ナル警戒ヲ實施シ  
 了タル處、昭和二十年一月三日九時高度約四百米ヲ又モ四機  
 入那覇上空並ニ北飛行場上空ヲ旋回偵察ヲ實施ス  
 當時臺灣各地兵敵艦載機ノ攻撃ヲ受多クアリ  
 部隊ハ敵機動部隊、近接シタルニ繕ヘ直チニ各陣地ニ命ジ嚴重チ  
 ル警戒ヲシ敵機必捉、態勢ヲ以テ警戒シアリ  
 部隊ノ配置要圖附圖第一、如シ

二戰鬪影響及之氣象

- 1. 日出 七時七分 日没 一七時五〇分
- 2. 月出 三時一分 月没 一〇時三七分
- 3. 天候 快晴
- 4. 風向 東北 風速 三—五米
- 5. 雲量 極多 雲高 一五〇米乃至二〇〇米ニシテ 視程 五〇米

三彼我之兵力敵之團隊號戰法

- 1. 敵ハグラマンF6Fニシテ 延約五〇機ヲ以テ攻撃アリ
- 2. 敵ノ團隊號 第三機動部隊
- 3. 敵ノ戰法 敵ノ攻撃目標ハ飛行場ニシテ二〇〇米乃至三〇〇米ヲ目標上空ニ來襲急降下ヲ以テ銃撃ヲ行ヒ爆彈ハ投擲ス
- 4. 部隊本部編制表附表第一如シ

四各時期於ケル戰鬪經過

部隊ハ銃意警戒ヲ實施中、處昭和三十年一月三日九時ボーイング四那霸上空ニ飛來偵察ヲ實施シ北方ニ遁走引續キ九時三十分安武隊警戒機乙(野戰用)ハ二〇度ハ〇軒及九〇軒ニ進入中、編隊ヲ捕捉シ直通電話ニ依リ本部情報室ニ報告シ來ル

情報室勤務中ノ情報料將校入江少尉ハ直ニ敵機ナルヲ判断シ軍司令部情報室ニ報告ス

爾後號谷山安武隊警戒機乙ハ進入並ニ脱去スル敵ヲ捕捉シ機ヲ失スルコトヲ報告シ來ル其ノ航跡ハ附圖第二如シ

九時半分 小録飛行場ハグラマンF6F戰斗機二機ノ銃撃ヲ受ケ同時刻北飛行場又「グラマンF6F」戰斗機四機攻撃ヲ受ケ

九時半分 沖繩本島地区ニ對シ空襲警戒令カ

九時十分 本部ハ情報室及無線通信所ヲ豫テ準備中ノ壕中ニ

移轉シ敵攻撃ニ對シ情報收集中心極、掩護ヲ完全トシ  
有無線通信網疎通良好ニシテ終始情報收集並指揮連絡  
極メテ容易ナリヤ

十時五分 敵機四機那霸上空ニ來襲銃撃ヲ實施シ小録飛行場  
ノ方向ニ黒煙ノ揚ルヲ望見サルモ間モナク消滅ス

十時十分 敵編隊西南方ニ脱去ス

十時三十分 東方六〇新ニ進入中ノ敵機ヲ捕捉  
十時三十五分 同飛行機ハ本島ニ到達セスレ西南方向ニ脱去ス  
十二時五分 左ノ如ク南西諸島全地区空襲警報解除サレ

空襲警報解除

第三十二軍司令官

部隊ノ直ニ警報ヲ傳達スルト共ニ空襲警報解除後ト雖ニ益々  
警戒ヲ至嚴ナラシメ敵ノ必捉ニ努メ其ノ奇襲ヲ完全ニ防遏セ  
ルニトシテ期ス

五戦後於テ我機要

空襲警報解除後部隊ハ引續キ至嚴ナル警戒ヲ示ト共ニ警戒  
機並ニ各種通信器材ノ整備ヲ十分ナラシメ現陣地偽裝ヲ完全  
ニ次期來襲ノ敵ニ備フ  
部隊ノ人員器材ニ異常ナル戦斗前ノ配置ニ同ジ

(了)

